

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2020年2月25日

事業所名：高原クリニックデイサービス

| 区分 | チェック項目 | 現状評価(実施状況・工夫点等) | 保護者の評価 | 保護者の評価を踏まえた改善目標・内容 |
|----------|--|--|--|--|
| 環境・体制整備 | 1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保 | グループ療育のプレイルームと個別療育の相談室を完備している | 児童発達支援のグループ療育ご利用者で、「どちらともいえない」の回答が10%、その他は十分な確保ができていると回答 | 今後、メンバーの編成などにも配慮し、検討していく |
| | 2 職員の適切な配置 | グループ療育では、常時2名以上のスタッフ、個別では、1対1で関わっている(スタッフは全員保育士、心理士、特別支援教育士、言語聴覚士など有資格者) | 「わからない」1名のほかは、職員の配置数や、専門性は適切であるという評価を得ている | 今後も現状維持を継続していく |
| | 3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備 | プレイルーム、相談室ともにバリアフリー、洗面所やトイレも子ども用に配慮した構造をとっている | 「わからない」、「どちらともいえない」が6.5%、その他は適切に配慮されているという回答を得た。家でも参考にしているというご記載もあった | 個々のニーズを出来る限り取り入れた環境設備の整備を配慮する |
| | 4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保 | プレイルームは、二面採光で明るく、粗大運動も可能な広いスペースを確保している | すべての回答において、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保はなされていると評価されている | 今後も現状維持を継続し、問題点が生じた場合には、検討し、整備していく |
| 業務改善 | 1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画 | 小児科医師に受診、心理士による発達検査を経由し、スタッフでのカンファレンスを開催し、療育について全員で考える | / | 小児科医師、心理士、特別支援教育士、保育士など、多職種で連携しつつ、より良いサービスの提供に努める |
| | 2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施 | 現在、実施していない | / | 今後の検討課題とする |
| | 3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保 | 小児科医師による施設内での勉強会の開催、また自治体や各種団体主催の研修会、講演会へ参加し、スタッフ間で情報を共有し、スキルアップに努めている | / | 今後も引き続き、スタッフ全員の自己研鑽の場を確保していく |
| 適切な支援の提供 | 1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成 | 小児科医師、心理士によるアセスメントを行い、保護者と面談の後、個別支援計画を作成している | 「どちらともいえない」、「わからない」の回答が1名ずつ、その他はすべて適切な支援計画が作成されていると回答を得た | 親の気づかないところも専門的に対処してもらい助かっているというご回答も踏まえて、今後も現状維持を継続していく |
| | 2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成 | 児童発達支援では、基本、母子保育での集団から開始し、状況を判断して、母子分離、個別等へと移行する。放課後デイサービスは、個別指導を基本としている | 「わからない」の回答が1名、その他はすべてはいいの回答を得た(放課後デイサービスは個別でのサービス提供が基本形態である) | 母子通園、個別指導などの特徴を活かしたサービス計画を今後も継続する |

| 区分 | チェック項目 | 現状評価(実施状況・工夫点等) | 保護者の評価 | 保護者の評価を踏まえた改善目標・内容 |
|--------------|--------|--|--|--|
| 提供 | 3 | 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載 | 「わからない」の回答が1名、その他はすべてはいの回答を得た | 現状維持を継続しつつ、具体的な支援内容について、明確に記載していく |
| 適切な支援の提供(続き) | 4 | 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施 | 「どちらともいえない」「わからない」の回答が2名ずつ、その他はすべて計画に沿った支援が行われていると、回答を得た | 現状維持を基本としつつ、利用者の変化に迅速に柔軟に対応していく |
| | 5 | チーム全体での活動プログラムの立案 | 新入児については、小児科医師も含めたカンファレンスを全員で行っている。医師、心理士、特別支援教育士、保育士、言語聴覚士、幼稚園教諭の多職種で連携し、立案している | 児童発達支援管理責任者を中心に、小児科医師、心理士、特別支援教育士、保育士など、多職種で意見を出し合い、各々の専門性を取り入れて立案していく |
| | 6 | 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援 | 長期休暇も学校園開校日と同様に療育を実施している。状況に応じて、長期休暇のみの利用も受け入れている | 利用者の状況に応じて、臨機応変に対応可能な受け入れ体制を今後も構築していく |
| | 7 | 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施 | スタッフ間での意見交換や、外部で開催の研究会、講演会へも積極的に参加し、有益な情報確保に努めている | すべての回答が、活動プログラムは固定化しないように工夫されているという評価であった。親がしてあげられない体験をさせてもらっているというご意見もあった |
| | 8 | 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底 | 毎朝、クリニックで連絡事項を確認後、当日の健康状態も含めた児の様子を保護者から聴取し、事前に用意しているプログラムが的確か否かを判断の上、療育を開始している | 今後も現状維持を継続していく |
| | 9 | 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化 | 療育終了後は、利用者個別の記録を各々記載する。スタッフで療育を振り返り、意見交換をし、現状と課題について検討する | 今後も現状維持を継続していく |
| | 10 | 日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施 | 利用日ごとに、個別の記録ノートを記載し、状況把握や、スタッフ間での情報交換している | 今後も現状維持を継続していく |

| 区分 | チェック項目 | 現状評価(実施状況・工夫点等) | 保護者の評価 | 保護者の評価を踏まえた改善目標・内容 |
|----------|---|--|---|---|
| 11 | 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し | 発達検査のデータをもとに、また、スタッフ間で情報、意見を出し合い、児童発達支援管理責任者を中心に計画の見直しを行っている | | 今後も現状維持を継続していく |
| 関係機関との連携 | 1 | 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画 | 相談支援専門員からの要請があった場合は、利用者の情報を提供している。担当者会議への参画の経験は無し | 今後、必要に応じ、また要請があれば、それを受けて協力体制をとっていく |
| | 2 | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施 | 医療機関併設(小児科クリニック) | 医療機関が母体であるという特性を活かし、今後も小児神経専門の院長の指導の下、より良いサービスを提供していく |
| | 3 | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備 | 医療機関併設(小児科クリニック) | 医療機関が母体であるという特性を活かし、今後も小児神経専門の院長の指導の下、より良いサービスを提供していく |
| | 4 | 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有 | 幼稚園、保育所、小学校などからのご希望があれば、随時、見学や懇談を受け入れている | 今後も現状維持を継続していく |
| | 5 | 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、 | 希望があれば、情報提供は可能であるが、現在まで実績なし。 | 当該事業所からのご希望があれば、情報提供に応じていく |
| | 6 | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進 | 日常業務に支障を来さぬ範囲内で、外部機関主催のへ参加している | 学会、研究会、講演会に参加し、積極的に各スタッフが自己研鑽に努める |
| | 7 | 児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供 | 実施実績無し | 「どちらともいえない」「いいえ」「わからない」が大部分を占めている |

| 区分 | チェック項目 | 現状評価(実施状況・工夫点等) | 保護者の評価 | 保護者の評価を踏まえた改善目標・内容 |
|---------------|--|---|--|--|
| | 8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営 | 実施実績無し | | 今後の検討課題とする |
| 保護者への説明責・連携支援 | 1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明 | 保護者に対し、契約時に、重要事項説明書に沿って説明し、サインと押印を実施している | すべての回答において、これらの内容について、丁寧な説明がなされているという結果であった | 今後も、引き続き、納得の得られる分かりやすい説明を心掛けていく |
| | 2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明 | 放課後デイサービスは、個別指導で行っているもので、必要な場合は適宜、保護者と当日の内容も含め説明している、グループ療育では、面談日を設定して、説明を行っている | 「どちらともいえない」「いいえ」の回答が1名ずつ、その他は、計画を示しながら、説明がなされたと回答している | 今後も、引き続き、納得の得られる分かりやすい説明を心掛けていく |
| | 3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施 | 正式なプログラムに対応したペアレントトレーニングとしては、実施実績無いが、母子通園の利点を活かし、親子の関わりについては指導内容に組み入れている | 「どちらともいえない」4.3%、「いいえ」「わからない」が各々8.7%、その他は、保護者に対して家族支援が行われているとの回答を得た | 種々の訴えにも耳を傾け、家庭での親子、兄弟などの関わりについて、良好な家庭環境の構築についても引き続き、支援していく |
| | 4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底 | 母子保育での利用者には状況確認を共有し、分離での利用者には、送迎時にその都度、連絡、報告を行っている | 「わからない」1名、「どちらともいえない」2名、その他は、共通理解ができていると回答の回答を得た | 今後も、引き続き、保護者との共通理解に努めていく |
| | 5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施 | 保護者からの訴えや、悩みに共感しつつ、適宜、助言を行っている | 「どちらともいえない」が3名、「いいえ」「わからない」が1名ずつ存在、その他は適切な対応、必要な助言が行われているという回答を得た | 親子通園の利点を活かしつつ、保護者と共通理解をもち、問題発生時に迅速な対応を心がけていく |
| | 6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援 | 児童発達支援では、母子保育を実施しているので、保護者間の繋がりはあるが、具体的な活動はない | 「いいえ」26.1%、「わからない」15.2%、「どちらともいえない」28.3%、その他は「はい」の回答であった | 放課後等デイサービスは、個別対応を基本としているので、保護者同士の連携は難しい現状である |
| | 7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応 | 重要事項説明書に、苦情受付窓口を記載している。円滑かつ迅速に解決するために、スタッフ間でミーティングを行い、検討する。必要であれば、外部機関と連携し、対処する | 「わからない」23.9%、「どちらともいえない」10.9%、その他は「はい」の回答であった | 苦情があった場合の対応について、説明時に周知を徹底する |
| | 8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮 | 視覚支援を取り入れ、個々の特性を考慮した教具を利用している。保護者との情報伝達は、面談や連絡ノートを活用している | 「どちらともいえない」4.3%「わからない」4.3%その他はすべて「はい」の回答であった | 今後も引き続き、配慮の必要なケースには、個々のニーズにあった配慮を行い、対応していく |

| 区分 | チェック項目 | 現状評価(実施状況・工夫点等) | 保護者の評価 | 保護者の評価を踏まえた改善目標・内容 | |
|---------|--------|---|--|---|--|
| | 9 | 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信 | 会報の発行はしていない、行事予定や活動内容については、担当者が掲示を行ったり、保護者に直接書面でお知らせしている | 「いいえ」21.7%、「わからない」30.4%、「どちらともいえない」6.5%、その他は「はい」の回答であった | 母子通園が基本であるので、保護者との情報共有は毎回可能ではあるが、今後、必要な場合には会報の発行なども検討する |
| | 10 | 個人情報の取扱いに対する十分な対応 | 個人情報に取扱いに関しては、パソコンのウィルス対策や、紙の媒体でのデータの管理も慎重に各自が責任をもって対応している | 「わからない」が6.5%の、「どちらともいえない」4.3%、その他は十分な対応であるとの回答を得た | 今後も引き続き、個人情報の取り扱いについては、最大限の配慮を行っていく |
| 非常時等の対応 | 1 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底 | 消防署の基準に満たした防火設備は完備している。緊急時対応マニュアルを策定、親子での来院が基本となっている | 「わからない」が28.3%、「いいえ」が13%、「どちらともいえない」10.9%、その他は「はい」の回答を得た | 今後、周知の徹底に努力していく |
| | 2 | 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施 | 定期的な避難訓練を実施(年に一度) | 「わからない」が23.9%、「いいえ」が17.4%、「どちらともいえない」8.7%、その他は「はい」の回答であった | 放課後等デイサービスは個別での対応を基本としている特性上、訓練実施は困難であるが、スタッフが非常事態に備え、十分な対応可能なように、心がけておく |
| | 3 | 虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応 | 職員研修において、徹底している | | 今後も引き続き、職員研修を継続していく |
| | 4 | やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載 | 該当する利用者は無し | | 今後、身体拘束の必要性が生じた場合には、全職員で検討する |
| | 5 | 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応 | 児童発達支援のグループでは、おやつを提供しているので、医師の指示どおりに対応している | | 今後も、医師の指示どおりの対応を徹底していく |

| 区分 | チェック項目 | 現状評価(実施状況・工夫点等) | 保護者の評価 | 保護者の評価を踏まえた改善目標・内容 |
|----|---------------------------|--|--------|----------------------------|
| 6 | ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底 | ヒヤリハットの報告書を作成し、全職員で情報を共有できるようにしている(昨年度は事例にあがるケースはなし) | | 今後も、ミーティングやカンファレンス時に徹底していく |